



協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.138



10月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2022年10月1日

協会設立70周年に向けて

副会長 70周年記念事業委員会 大内 政男

当協会は「国際観光設備協会」として1953年に設立、来年には70周年を迎えます。70年の間には日本の観光を取り巻く環境は大きく変化しました。設立当時は戦後の経済復興のため国策としてインバウンドの観光振興が図られ、国際水準の宿泊施設の整備が急務であったようで、1949年に「国際観光ホテル整備法」が制定されています。その後の高度経済成長期には一転して日本人のアウトバウンド観光が奨励され、2000年代には再度、低成長経済の牽引役としてインバウンド観光が着目され、ビジットジャパンなどの振興策により2019年には訪日客が3,180万人に達しました。コロナの収束が見え始めた現在、ようやくウィズコロナ・アフターコロナの観光が再開し、地球環境に配慮した持続可能な観光を模索する時代へと変化してきました。

当協会は観光関連団体の中で唯一の技術集団として名称を「国際観光施設協会」と改め、活動の対象も宿泊施設のみならず街並みや環境、伝統文化などに拡げてきました。政治経済またパンデミックの様な社会変化に大きな影響を受ける観光の世界で、協会70年の歴史はその変化に適合して進化してきた証であり、広範囲な活動を続けて来た成果とも言えます。

70周年を迎えるにあたり、記念事業委員会では協会の将来像を描きつつ、どのような事業を行うべきか議論してきました。将来像の答えはまだありませんが、協会は会員が自ら課題を設定し、知見を持ち寄り実行していく事が特徴で、その活動と情報交換のプラットフォームが協会という共通認識のもと、会員が相互の活動を理解し、その知見をフルに活用することが重要との結論に至っています。60周年では記念事業としてホテルショーに「美しい日本文化とエコ技術」について内容を告知し、翌年から毎年「日本のこころ」をテーマとして日本の観光空間の魅力、伝統文化、優れた技術などを紹介し、会員と共に社会に発信してきました。

70周年ではテーマを「日本を伝える」とし、コロナで大きく変化した環境の下、ここ10年の活動で蓄積してきた日本の持つ魅力や技術を再度確認して全会員で共有し、協会活動を通して広く世界に伝えることで次の10年を期す事としました。これは会員の皆様が全員参加型で活動を企画し実行する事で初めて実現します。皆様には是非70周年を機に次代の国際観光施設協会の姿を考えていただければ幸いです。

技術委員会の活動状況とこれからの予定

技術委員会 副委員長 野出木 貴夫

コロナ禍第7波のピークアウトがささやかれています。一方で更なる変異株による第8波の不安も聞かれます。このような状況下でも技術委員会はWEB会議を定常的に活用し、その活動を停滞させることなく活発に推進しています。今年度は来年迎える協会創立70周年記念事業も意識しながらの活動・イベントなどの企画も準備が進められているようです。10/6のCSV中間報告会で各グループの報告にご期待ください。

【ホテル都市分科会】WEB会議もすっかり定着し、毎回多くの委員の参画を得て活動を進めています。木づかい推進では、創立70周年記念事業も意識し、次年度のイベントを企画中です。地方に足を延ばし、新鮮な空気の下、リアルな空間で交流と議論を深めたいと思います。一方、新UD客室研究は、今年度は客室浴室廻りのドアに着目しています。引き戸にした場合の新たな提案は可能か、現在研究推進中です。

【観光交流空間のまちづくり研究会】今年度もクロストークを中心に活動を行う予定ですが、当委員の方はそれぞれ旅や観光やまちづくりに関連して様々な活動を行っているプロフェッショナルであることと、コロナ禍含めて委員同士の交流や会話が少なくなっていることから、今年度は委員の方に登壇いただき、参加した皆さんとディスカッションを行うセッションを2か月に1回程度で行い、皆さんとの交流を図ってまいります。

【旅館観光地分科会】テクノロジーによる宿泊施設のコンシェルジュ化を掲げ、「町じゅう旅館・町じゅうホテル」と名付けて実証実験を2020年に行いました。昨年度よりこの座組をさらに進化させ、分科会内に「スマートシティ研究会」を立ち上げ、「LINKED CITY」と名付けて自治体、観光関連団体、地域DMOとの協業を行っております。今後さらに活動の場を全国に移し、地域創生をキーワードにプロジェクトを進めていきます。

【エコ・小委員会】急激なエネルギーの高騰が宿泊施設の経営を圧迫し、対策として温泉旅館の重要なエネルギー源の温泉の上熱、下熱を有効に利用する取り組みを各地で提案、実行しています。また人手不足も経営のネックとなり、ハイブリッド厨房で食の生産性向上を提唱しています。宿泊施設の経営を支えるエネルギー、生産性にかかわる基盤整備にエコ・小のノウハウを生かす活動を進めています。

【インテリア分科会】今年度は「日本の技と極みそして次世代への伝達」をコンセプトに、地方の伝統文化・職人の技術を探し、技術産業の担い手と設計者を結ぶ新たな道筋・窓口をつくり、次世代につなげていくことを目指しています。9月に阿部興業様の鹿沼の伝統工芸(鹿沼組子)の工場を尋ねました。今後は今まであまり調査できなかった地方の伝統工芸を掘り起こすことと、以前調査した伝統工芸のいくつかの会社の今後の進展を再調査することも検討しています。

【耐震研究会】ホテル・旅館の耐震改修の促進について研究を進めています。耐震化の助成金制度の調査のほか、SDGsへの取り組み、BCP(事業継続性計画)の推進のほか、地震災害後の迅速な復旧を目的とした、建物のセンシング・モニタリングの研究も行っております。今年度は、新たに2名の新入会員を迎えることができ、より一層、活発な活動を目指していきます。

建築部会の活動状況とこれからの予定

建築部会 部会長 崎山 茂

コロナ禍発生も収束に向けて様々な規制緩和の政府方針が出た現在、建築部会でも新築ホテルの見学会再開にむけて検討を始めています。9月26日には江東区にあるLIXIL本社の見学会を企画しました。宿泊施設ではありませんが、LIXIL様が自らの施設を実験台にして環境技術やLGBT対応のトイレなどを野心的に試みた建物だけあって、多くの方に関心を寄せていただきました。

これからはコロナ禍で見学できなかった分を取り戻すべく、見たくても見られなかった施設も含めて更に多くの施設見学を通して皆さんの見識と交流を深めると共に水辺観光のテーマのもと、水上セミナーも復活させたいと考えています。

設備部会の活動状況とこれからの予定

設備部会 部会長 藤野 健治

設備部会では、これまでに計3回の幹事会をweb併用で開催し、新型コロナウイルス感染防止を念頭に「施設見学会報告を通しての関連情報提供」と「設備部会全体交流会の開催」について検討してきました。7月27日には、「脱炭素社会の実現に向けた直近のトレンド」をテーマに、「2022年度設備部会交流会webセミナー」を開催しました。セミナー1:CO2排出量を1/2に減らした温泉旅館、セミナー2:既存建物のCO2排出量削減とZEB化、セミナー3:SDGsから考えるパブリックトイレ、について公演頂き、50名を超える方に聴講頂きました。また、設備部会全体交流会については11月に開催する予定で実現に向けた打合せを進めています。活動状況につきましては、今後も掲載等を利用して皆様に情報発信して行きたいと思っております。

インテリア部会の活動状況とこれからの予定

インテリア部会 部会長 寺本 昌志

コロナ禍が3年目に入り、その中での交流活動は、まだまだ難しくはありますが、会員の皆様からリアルに交流する事への要望も聞こえてきており、各グループリーダーには安全面を配慮の上、交流できる場を設ける企画立案をお願いしている状況です。そういった各グループの努力のお陰で、今年度は見学会やセミナー・講演会が実現しつつあります。

まず5/24に新情報発信グループがサンゲツ品川ショールームにて商店建築社の塩田編集長を招き、ホテルづくりの研究会を開きました。参加者は64名(リアル)。そして6/6に宿泊施設見学グループが芝パークホテル(改装)の見学会を行い、64名(リアル)の方が参加されております。またセミナーグループではこれまでミーティングを重ね講師候補を絞り込み、来年3月にセミナーを開く予定で準備を進めています。注目施設見学グループでも来年2月に見学会実施予定で見学先を絞り込んでいる状況です。

今後も会員の皆様には安全を第一に考えた交流の場を持てるよう企画を立てて参りたいと思っておりますので、告知があった際は是非参加頂ければ幸いです。

観光交流空間のまちづくり研究会

令和4年度第1回クロストーク 報告

まちづくり研究会 会長 清水 聡

今年度の研究会活動のクロストークは、それぞれの委員の方が旅や観光やまちづくりに関連して様々な活動を行っているプロフェッショナルであることと、コロナ禍含めて委員同士の交流や会話が少なくなってしまうことから、委員の方に登壇いただき、それぞれ今行っていることや、興味のあることなどを講演いただき、参加した皆さんとディスカッションを行うセッションを2か月に1回程度で行う予定です。

第1回として清水建設の末森さん、大成建設の廣川さん、小西さんに登場いただき、話をさせていただきました。末森さんは2020年秋にオープンした「HOTEL THE MITSUI KYOTO」の設計監理中、京都でさまざまなホテルに宿泊され、それを「京都のビジネスホテル・私的トレンド」としてプレゼンいただきました。委員の皆さんが知らなかったホテルも多く、非常に楽しいプレゼンテーションでした。また、大成建設廣川さんは横浜の日本大通りで滞留を誘発する仕掛けとして人工芝を敷設したウエルビーイングに資する「横浜 ParkLine」の取り組みを、小西さんは日本の水族館の歴史や現在をプレゼンテーションしていただきました。ともに、今我々が考えるべきことへの示唆に富み、何より楽しい話を伺うことができたと思います。

12月6日、忘年交歓会開催！ セミナーでは、地方創生の 後藤健市先生 ご登壇予定！

事業委員長 岡野 正人

年末恒例の忘年交歓会が12月6日(火)にホテルメトロポリタンエドモントにて開催されます。

セミナーには、場所文化デザイナー、スノーピーク地方創生コンサルティング代表取締役会長の後藤健市氏をお招きしてご講演頂きます。後藤様からは「地方創生」「野遊び」をキーワードに、「地方の魅力」「地方こそ日本観光の宝」等、日本を元気にするお話をさせていただく予定です。



後藤健市先生

12月6日火曜日 16:00~です。乞うご期待！

セミナー後の忘年交歓会開催につきましては、新型コロナ感染第7波でも色々緩和されて行動制限も無くなりましたが、暫く様子を見る必要があります。

総務委員会や事務局と協議しながら、開催形式を検討中です。“コロナを言い訳にしない”つもりで、何とか開催したいと思います。追って、詳細をお知らせします。乞うご期待！

第51回国際ホテル・レストラン・ショーの お知らせ

ホテルズ実行委員会 委員長 浅野 一行

第51回 国際ホテル・レストランショー・ショーは、令和5年2月7日(火)~10日(金)、東京ビッグサイト・東展示棟にて開催されます。

新型コロナウイルス感染症については、未だ終息には至っていない状況ですが、安全対策には万全を期したうえで、今年度も主催者団体の1つとして協会ブースを出展します。

さて、昨年来当協会には、ホスピタリティの波が押し寄せています。当協会の活動は、観光を取り巻く諸

問題に対し、利他の精神、ホスピタリティを発揮して、観光の明るい未来を築くこと。さらに今回は、来年の70周年記念事業の活動テーマ「日本を伝える」を受け、協会ブースの総合テーマは、「ホスピタリティのくに 日本を伝える」としました。ホスピタリティによって育まれた我々の歴史・文化・伝統を再認識した上で、次のフェーズとして、それをホスピタリティで支え、上手に伝えることの大切さを表したものです。

既に会員の皆様には、お手元に「協会ブースへの参加申し込みのお願い」(参加申込書)が届いていると思います。

参加形式は例年通り、①テーマ展示参加(8万円)②QRコード付ポスター参加(4万円)③CSV社名参加(2万円)の3種類です。全会員企業の参加を目指すCSV活動の主旨をご理解の上、必ず3つの何れかにお申込みいただきますよう、宜しくお願いたします。

第114回ゴルフ会の次回予告

会長代行 杉浦 司

第113回令和元年11月7日に開催以来3年ぶりの国際観光施設協会の秋のゴルフコンペを下記のとおり開催致します。

日 時 : 令和4年11月10日(木)
コ ー ス : 飯能グリーンカントリークラブ
プレイ費 : 約19,000円程度
(キャディ付・昼食1ドリンク付き・パーティ)各自精算
会 費 : 4,000円

コンペ終了後は表彰式とささやかな懇親会そしてお楽しみの賞品を用意しております。なお懇親会はコロナ禍に配慮したパーティーといたします。(パーティション設置・料理の個別取分)この機会に皆様とより一層の親睦を深めたいと願っております。会員の皆様はもちろんのこと、知人・友人の方々もお誘いのうえ、どうぞ奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

♥編集後記♥

コロナウイルスの感染状況が改善傾向にあることから、旅行代金を補助する観光支援策「全国旅行割(全国旅行支援)」が10月11日から実施されることになりました。訪日観光客に対する水際対策も大幅に緩和されることになり、入国者数の上限を撤廃し個人旅行やピザなし渡航を解禁するなど、いよいよ観光業界にとって待ちに待った状況に戻せるようです。

計画されています私達の活動が、これからも観光業界の発展のために貢献できますように、全員で取り組んで参りたいと存じます。 Y. K